

SINATO
portfolio 2018

s1nato

シナトー級建築士設計事務所



大野 力

Chikara Ohno

1976年大阪府生まれ、一級建築士。金沢大学工学部で都市工学を学び、卒業後にフリーランスを経て、2004年に株式会社シナトーを設立。建築・インテリア・インスタレーションアート等、様々な規模・用途のプロジェクトを国内外で幅広くデザインし、これまでに手がけた作品は約300件以上。また多くの国で賞を受け、国際的な評価も高まっている。2016年春には全体環境デザインを担当したJR新宿駅新南エリア(改札内外コンコース・駅前広場・商業施設NEWoMan)が完成。京都造形芸術大学・昭和女子大学にて非常勤講師も務める。

[s1nato 事務所の様子]



[受賞歴]

JCD デザインアワード 金賞
グッドデザイン賞 受賞
日経ニューオフィス賞 クリエイティオフィス賞
SDA 賞 最優秀賞
エル・デコインターナショナルデザインアワード
ヤングジャパンデザインアワード
BEST STORE OF THE YEAR 優秀賞
DSA 日本空間デザイン賞 優秀賞
群馬県農業技術センター整備事業設計提案競技 選外佳作入選
三重県建築賞 入選
ディスプレイデザイン賞 奨励賞
ディスプレイ産業賞 奨励賞

AIT Award (ドイツ) Next Generation 1st Prize

DESIGN FOR ASIA (香港) Silver Award

FRAME / THE GREAT INDOORS AWARD (オランダ) Finalist

The Ring iC @ward International Design (香港) Gold Award

contractworld.award (ドイツ) New Generation Finalist

IIDA GLOBAL EXCELLENCE AWARDS (アメリカ) Honorable Mention

他多数

[スタッフ]

金井 亮
宇佐見 盛二
山本 優一
平野 恵人
高柳 拓也
大谷 美紀子
小林 千緑
大野 ゆかり

シナトーという設計事務所を設立してから13年、300件以上の様々な場を設計してきました。その経験の中から僕が今設計をする上で大事にしていることを強引にまとめると、以下の4つが挙げられると思います。

場の新しい分節を考える

どのプロジェクトでも、そのプログラムや施工者が慣習的に採用してきた場の分節方法、つまり間取りというものがあります。僕はそれを平面的にも断面的にも、なるべく一度ゼロに戻して考えたいとする舞いの関係性」を新たに発見することと同義で、その場全体の空間体験を再定義することに繋がります。それは僕が設計をする上で思っています。場の新しい分節方法を考えることは、各部分での振舞いのサイズや「配置といった「振る舞いの関係性」」を新たに発見する空間単位を一日最小に戻すことが有効だと思っています。場の周辺環境を読み解きながら、まずは最小空間単位から考えることで、平面図・断面図上で新たに描けるラインを慎重に探していきます。その結果、ヒューマンスケールからシームレスに連続するスケール分布を内包する空間の構成が得られると考えています。

公共圏の拡張
例えば店舗を設計する際、僕はそれを「施工者が利益を生むための装置」としてではなく、「その場を訪れる人々の生活を豊かにする公財」として捉えて設計しています。多くの場合、施工者はその店舗を運営する為の効率性や利便性を重視するし、それは当然のことだと思います。しかし、僕らがプロジェクトに参画する意義は、他者として客観的にその場のより良い在り方を考えることだと思うので、僕らが生きる今日の社会には、様々な「既存」が溢れています。僕らが生きる今日の社会には、様々な「既存」が溢れています。

出来ればその既に沢山あるモノやコトを無視することなく、なるべく上手く取り入れながら場をつくみたい。但し、そうすることでも存の世界に回収され、その場の新しい可能性を閉ざすことは避けたい。そう考えて「既存」と向き合う時、僕はそれらを「積極的に誤読する」ことを意識しています。それは、あるものを別のものと仮にみなして表現したりなぞらえた「見立て」という感覚に近い。そう考えて「既存」と向き合う時、僕はそれらを「積極的に誤読する」ことを意識しています。それは、あるものを別のものと仮にみなして表現したりなぞらえた「見立て」という感覚に近い。そう考えて「既存」と向き合う時、僕はそれらを「積極的に誤読する」ことを意識しています。それは、あるものを別のものと仮にみなして表現したりなぞらえた「見立て」という感覚に近い。しかもせん。設計条件に過大解釈したりとも素敵なものも描くことがあります。それによって今そこにある既存の世界との関係を少しずらしながらも連続させ、アップデートされた新しい「既存」として未来へ繋いでいくという意識を持っています。

す。僕は、その場の利用者、あるいは利用しなくてもその場を通り掛かる人、周辺に住んでいる人といたった不特定多数にとっての価値をプロジェクトにどうバランスさせるかということを重視します。その場が公共財として人々に支持されれば、結果として施工にとっての商業的な利益も付いてくると考へているのです。恐らく今後はそういうモノサシで事業を評価されるかと思います。またその他の視点が強くなるだろうし、実際その辺りに敏感に反応しているプロジェクトも増えてきていると私は思います。また公共側にも、民間の手法やロジックを取り込もうとする動きが顕著です。つまり民は公へ、公は民へと近づきお互いが混ざり合う中で、新しい公共性を考え、今よりも多様な公共圏が拡張されていく状況を後押ししているのかと思います。またその中で新しいデザインを見発見していくのではないかと期待しています。

の個人の能力とは関係無く、そういった力学から逸脱することが大変困難です。そのような状況において、他者という存在はとても重要な要素だと思います。またその他者は、全く違う概念や方法を交換して頂き、あるプロジェクトで得た知見を全く異なるタイプのプロジェクトへ交換することが可能で幸い僕はこれまで様々な規模の存在であれば尚良いと思います。幸い僕はこれまで様々な規模や用途のプロジェクトに参画させて頂き、あるプロジェクトで得た存在であれば尚良いと思いまして、他者との存在でなければ尚良いと思いません。それは閉塞的なコミュニケーション環境を打破し、場の新たな可能性を開く上で非常に有効な方法の一つだと考へており、今後益々その在り方を強めていきたいと思います。

他者として交渉を促す
先にも少し触れましたが、僕はプロジェクトに他者として参画することの意義を強く自覚しながら設計しています。今日の社会では、形骸化した慣習に強く依存し、そこから脱却できないという状況があらゆる所で見受けられます。特に大きく複雑なプロジェクトであればある程、過去の事例や数値的な正しさばかりが極端に重んじられる状況があり、当事者たちはそ

の個人の能力とは関係無く、そういった力学から逸脱することが大変困難です。そのような状況において、他者という存在はとても重要な要素だと思います。またその他者は、全く違う概念や方法を交換して頂き、あるプロジェクトで得た知見を全く異なるタイプのプロジェクトへ交換することが可能で幸い僕はこれまで様々な規模や用途のプロジェクトに参画させて頂き、あるプロジェクトで得た存在であれば尚良いと思いません。それは閉塞的なコミュニケーション環境を打破し、場の新たな可能性を開く上で非常に有効な方法の一つだと考へており、今後益々その在り方を強めていきたいと思います。

積極的に誤読する
僕らが生きる今日の社会には、様々な「既存」が溢れています。

Recent Works



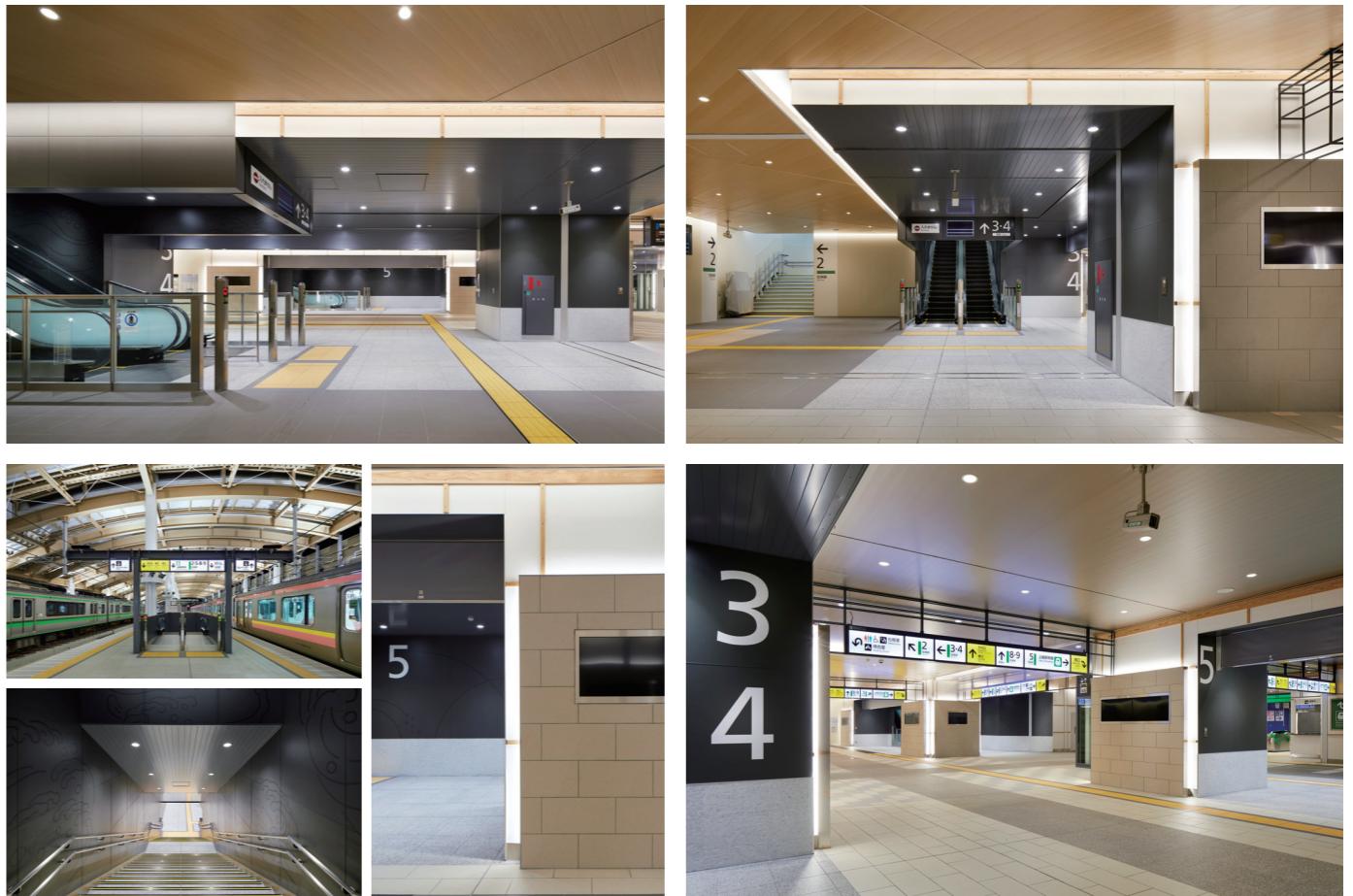
総長 120m の棚が専有部と共用部を越境しながら様々な用途・場所を繋ぐ、イベントスペース・保育所併設のシェアオフィス



Recent Works



新潟市の連続立体交差事業に伴い高架化する新しいJR 新潟駅のコンコースデザイン(第一期開業分)



Recent Works



Alibaba

chuo-ku, Tokyo 2017

<http://www.sinato.jp/works/alibaba/>

中国最大のEC企業「アリババ」の日本法人ヘッドオフィス

Recent Works

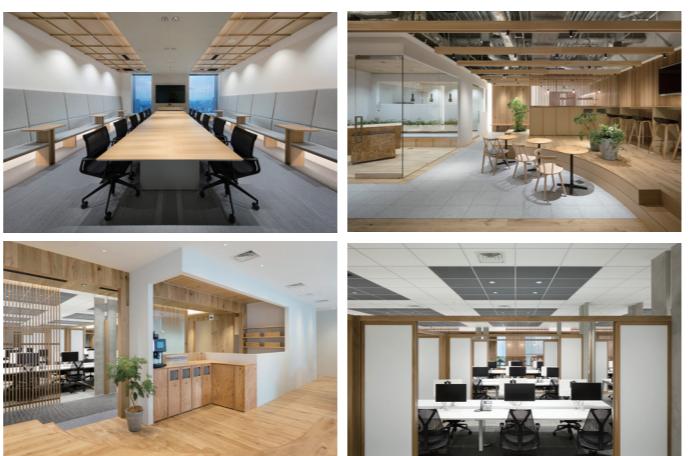
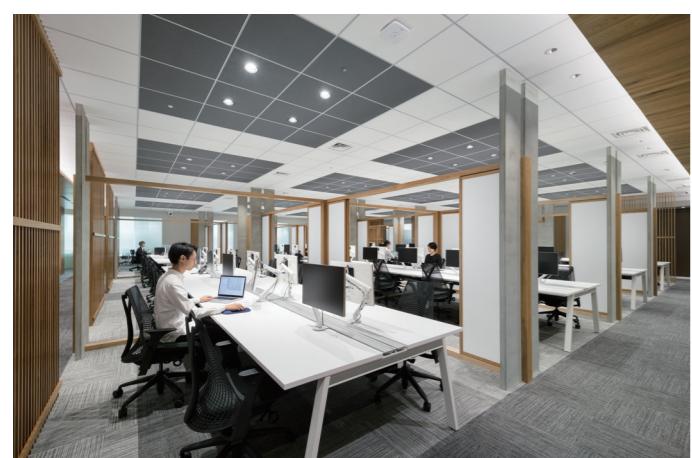


Narita Higashi S

Suginami-ku, Tokyo 2017

<http://www.sinato.jp/works/narita-higashi-s/>

東京・五日市街道沿いに建つ、床がズレながら積層する小さな木造住宅



1—STATION

「JR新宿駅新南エリア」でのバス・タクシーの乗降場を含めた交通結節点整備に伴い、新駅舎の改札内外コンコース、広場、またそれらに直結する商業施設「NEWoMan」の全体環境デザインを担当した。

大きな方針として、駅舎・広場・商業施設を一体的な環境としてグレーデーション的に繋ぐため、それぞれの空間の密度や質を調整して場の連続性をつくりながら、各用途固有の問題に対する解の更新を図っている。

広場のデザインのポイントは3つ。1つ目は中間スケールをつくること。そこは約2,000sqmの都市的スケールの空間であり、ベンチ等の家具を並べるだけでは余白が多すぎて全体を「居場所化」するのが難しい。そこで建築的・インテリア的スケールとも言うべき都市と家具の中間となるような空間単位が「居場所」として連続する状況をつくるため、植栽や段差・仕上げ差などを利用して空間を分節し、その中で家具的機能を設えた。2つ目は様々な視線のベクトルをつくること。広場南側に拡がる線路上空の都市ボイドに視界が開ける場所、向かい合って視線が交錯する場所、放射状に視線が拡がる場所、一人で広場下に行き交う電車眺める場所、円弧状に駅側のビロティを囲い眺める場

所等々、視線の抜ける長さ向きを多様にしていくことで、同時に人々の異なるアクティビティが立ち現れる風景を目指した。3つ目はアンジコレーションをつくること。東西に隣接する高島屋タピオスクエアと新宿サザンテラスのレベルが異なることもあり、広場西端部には高さ約2mの段差が生じる。であればその段差を局所的につくるのではなく、緩やかなアンジコレーションとして拡張し、それと共にスロープを設けてバリアフリーを確保することにした。隆起部分は人々が腰掛けられる巨大な家具として機能すると共に、広場内に見えがくれをつくり、人工地盤上のフラットな周囲風景に抑揚を与える。またそれらは場所毎に視線のレベル差をつくり、上述の視線ベクトルの多様性を助長するものである。

これらは全て、人々が広場を使いこなす為の「きっかけ」として散りばめたものだ。開業後1年が経つが、今の所それらは功を奏し、広場には多くの人々が集い賑わいを生み出している。新宿の新たな公共財として、今後益々周辺地域からも愛されるエリア全体のアメリカとなることを願っている。



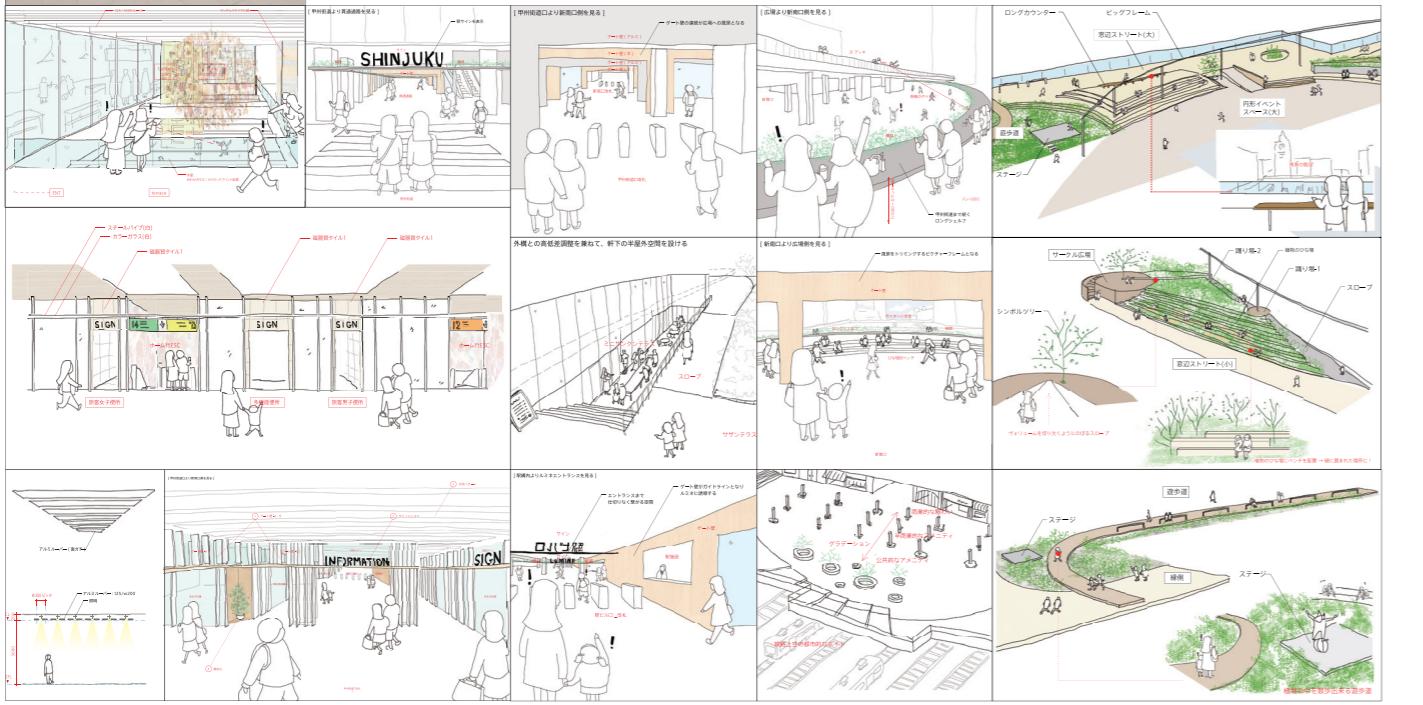
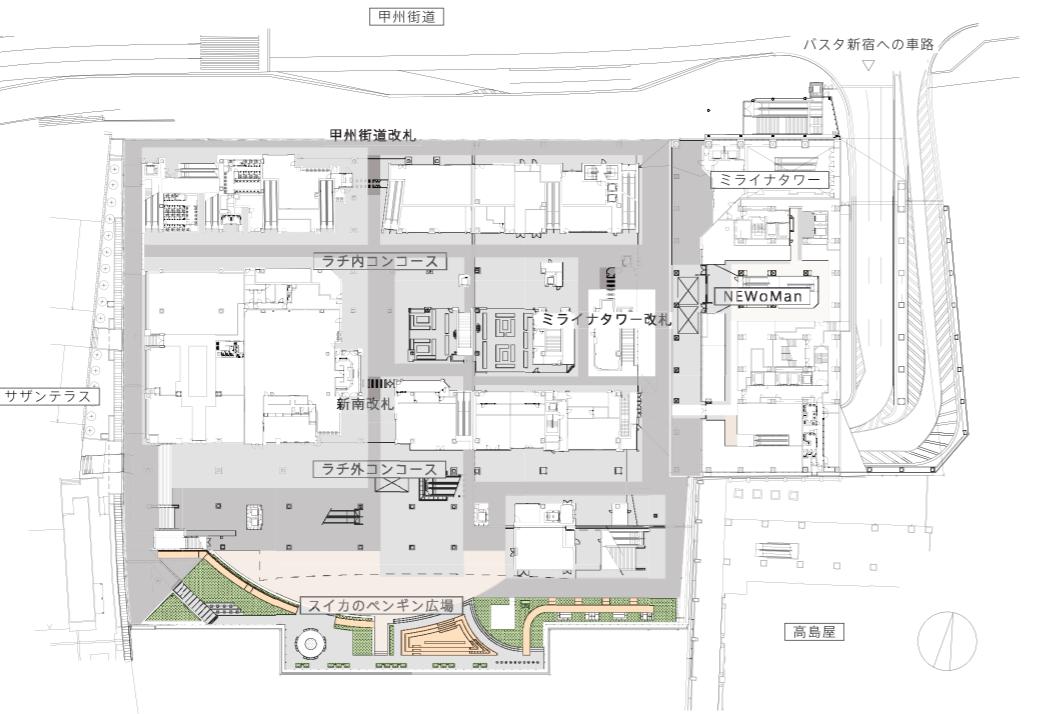
JR Shinjuku Station New South Area

Shinjuku-ku, Tokyo 2016

www.sinato.jp/works/suicas-penguin-park/



[2F plan]



迅速な合意形成を図るべく、施主とのコミュニケーションには大量のスケッチ（恐らく100枚以上！）を用いた

voice of the client

東日本旅客鉄道
事業創造本部
野崎 雅哉

新宿駅新南エリアのプロジェクトでは、駅と広場・商業施設が統一感のある新しい空間をつくるという事を目指し、sinatoの大野さんにデザインをお願いしました。駅においては、お客様の安全確保や分かりやすい誘導を提供するという事が根底にあるため、設計・施工・管理上の様々な制約があります。そのため、大野さんにご提案頂いたプランも変更せざるを得ない事が数多くありました。これまで色々な建築家やデザイナーの方々とやりとりをしてきましたが、大野さんはとても柔軟で提案力のあるデザイナーであると思います。さらに爽やかで人柄も抜群です（笑）。私から幾度となく、スケジュールが迫っている上に、ネガティブな相談をしなくてはならない事もありましたが、どんな時でも前向きでした。いつも期待以上の提案や代案を持ってきてくれるので、大野さんとの打合せを楽しみにしていましたのを思い出します。

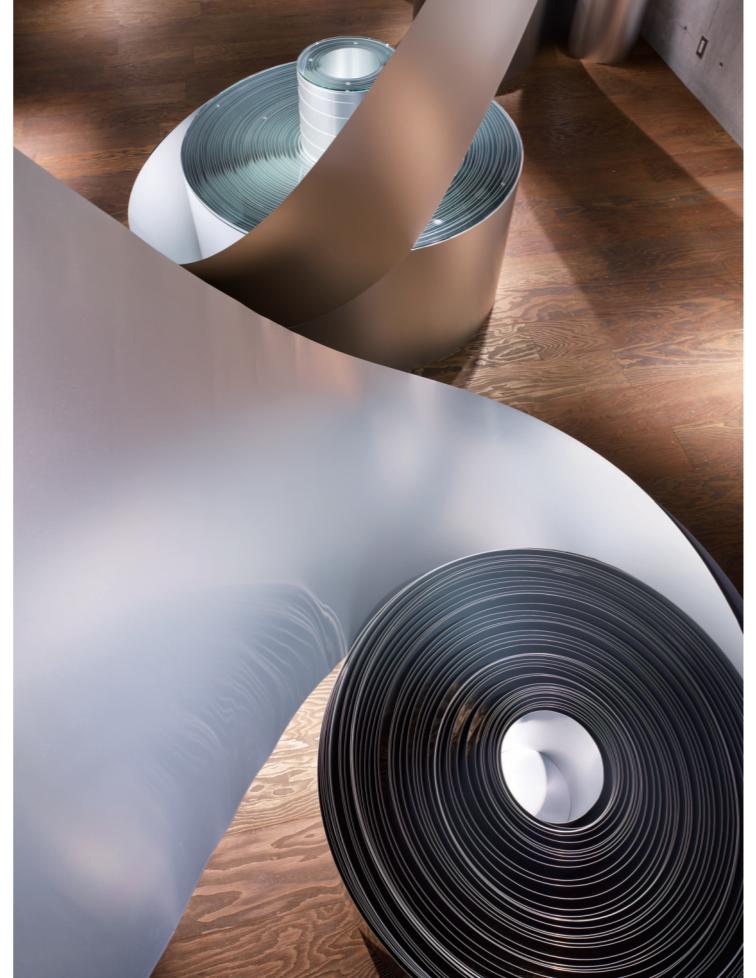
線路上空にできた「SUGA」のペンギン広場は、様々なイベントを開催したり、今まで新宿エリアではあまり見られなかった子連れの親子が電車を見ながら楽しんでいたり、期待以上に人々が集う「憩いの場」として使われており、大野さんに本当に感謝しています。



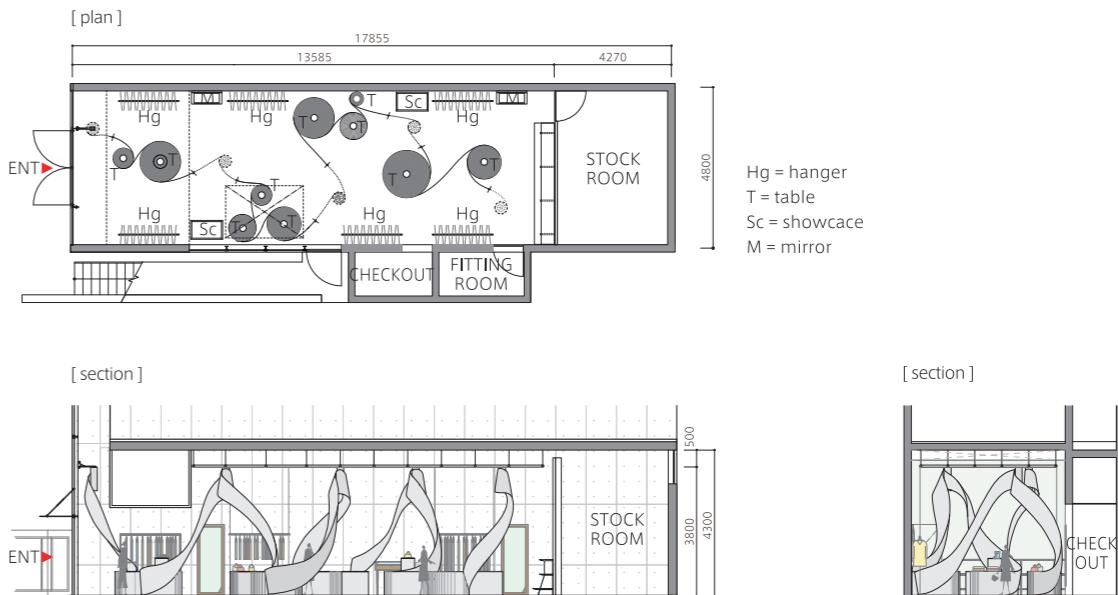
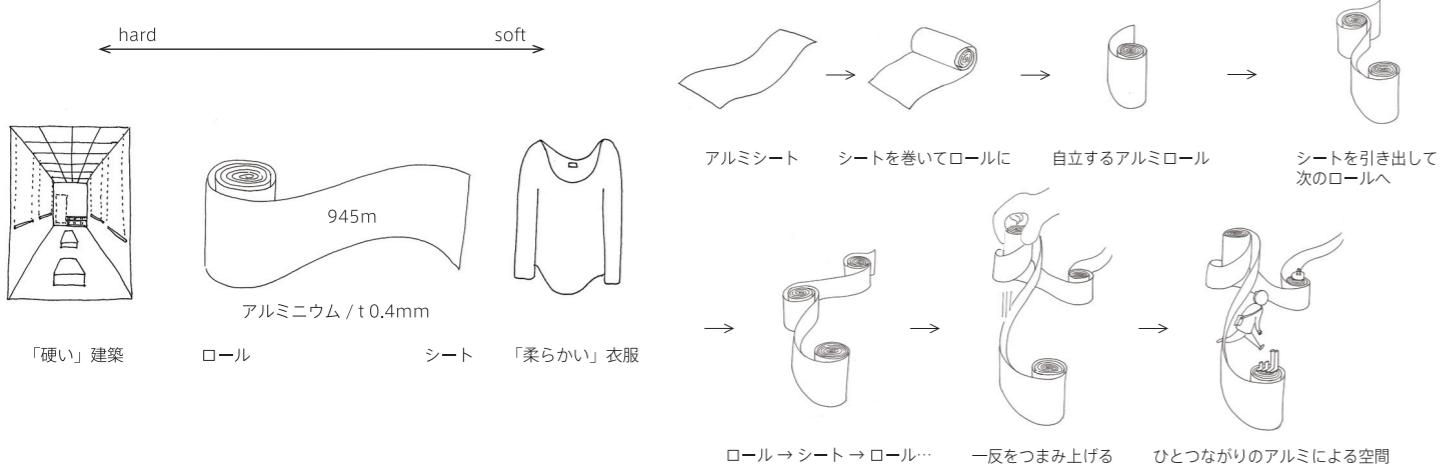
写真 上段 / 中段右：駅コンコース部。天井には無垢の米ツガを使用し、サネ加工して張ることで耐震天井基準に適応させた

2 | INSTALLATION

イタリアのファッショングラン
ド「DIESEL」が、若手アーティス
ト支援の場として運営するストア
ギャラリーでのインсталレーション
。総長945mの帯状のアルミ
を巻いたり伸ばしたりしながら、
ギャラリーの手前から奥へ、ひと
つなぎに空間をかたちづくって
いる。使用的アルミは、厚さ0.4
mmのとても薄く手で簡単に曲げら
れるようなもので、板と呼ぶには
柔らかすぎるけれど布や紙よりは
硬い、そんな中間的な物質感をもつ
たものだ。巻いて塊にすることで
硬く強いものにしたり、伸ばして
1枚にすることで柔らかく弱いも
のにしたり、強度の変化とともに
機能や表情を移らせながら、全体
としては波打つような美しいフォ
ルムをつくる。それは、硬さと柔
らしさを行き来しながら、建築と
ここに作品として陳列される洋服
とをゆるやかに繋ぐような不思議
な存在である。



[硬さと柔らかさを行き来すること]



ROLLS

Minato-ku, Tokyo 2010

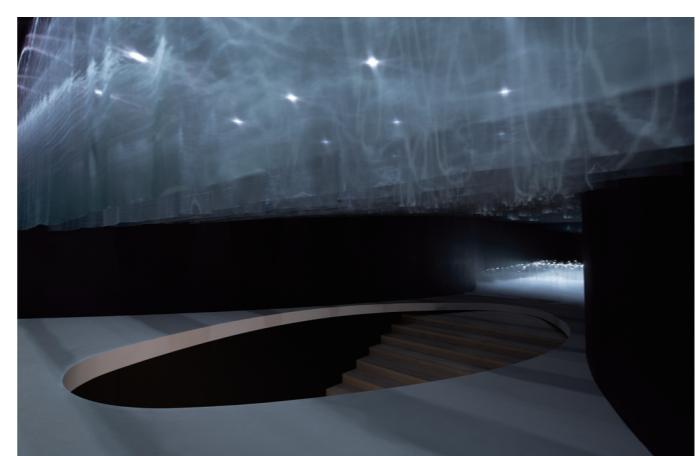
www.sinato.jp/works/rolls/



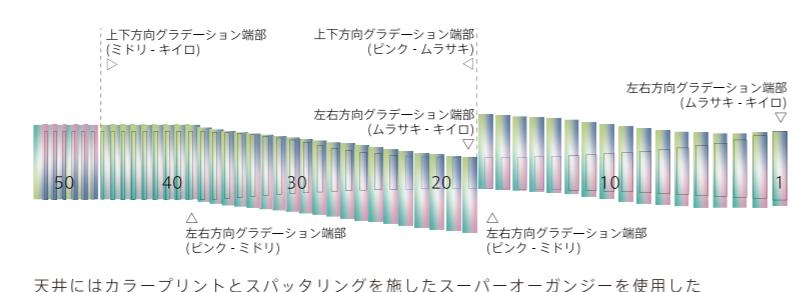
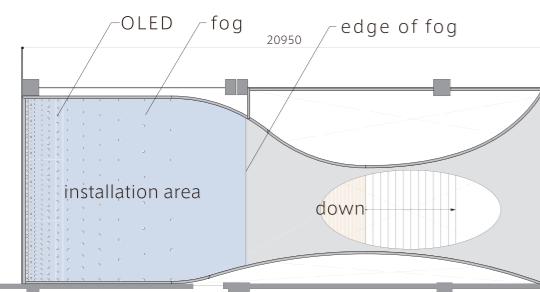
Infuse

Milan, Italy 2013

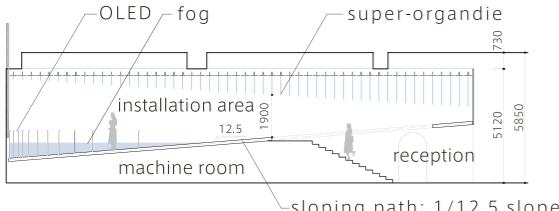
www.sinato.jp/works/infuse/



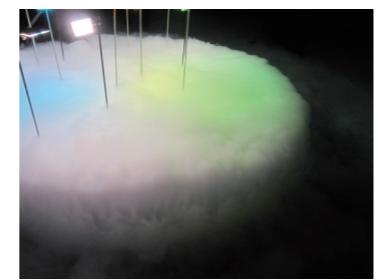
[plan]



[section]



フォグと光の量的関係は、モックアップで何度も実験を繰り返しながら決定した



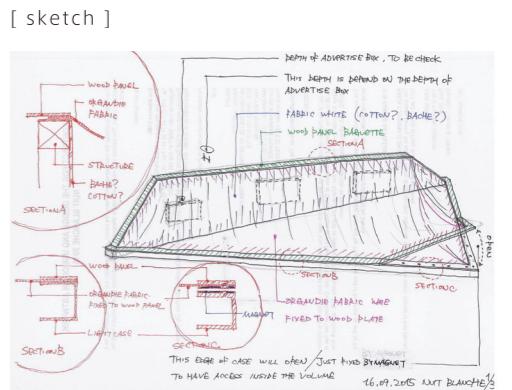
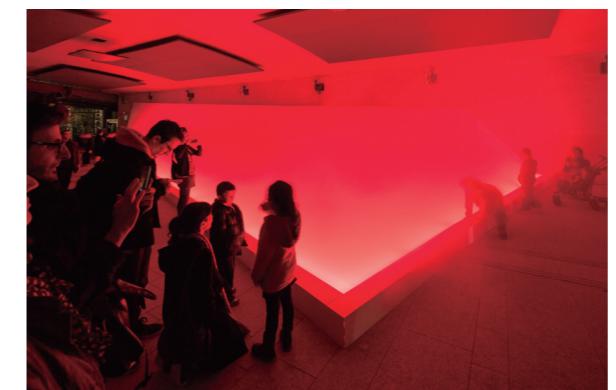
ミラノサローネでのヘビーフォグと有機ELを使用したインスタレーション。坂を流れ落ちるフォグが坂の下で塊となって光を受けながら揺れ動く。その時の気温や気流、来場者の動きによって常に変化し続けるライティングスケープ



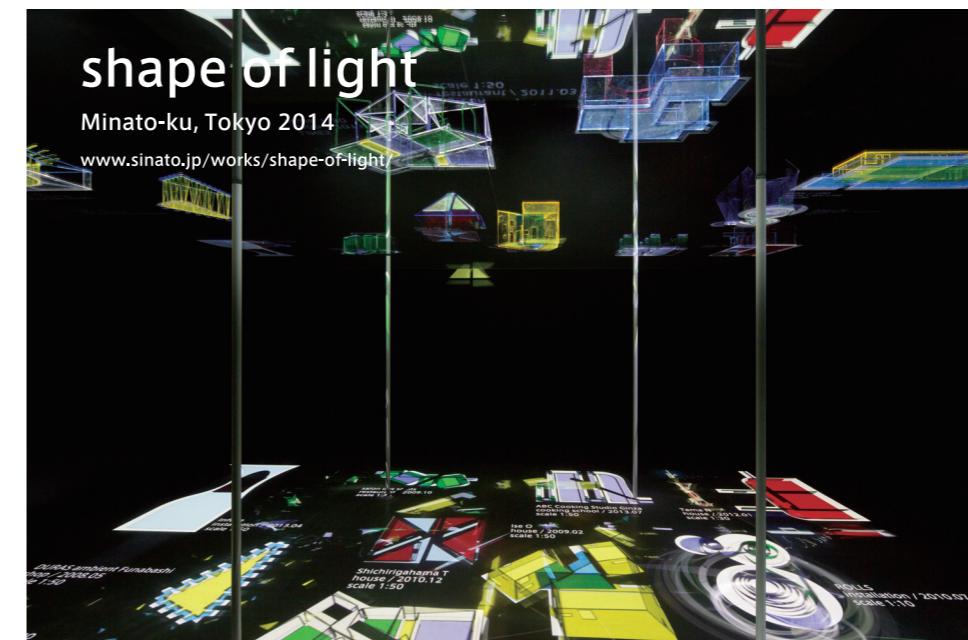
SPECTRUM

Paris, France 2015

www.sinato.jp/works/spectrum/



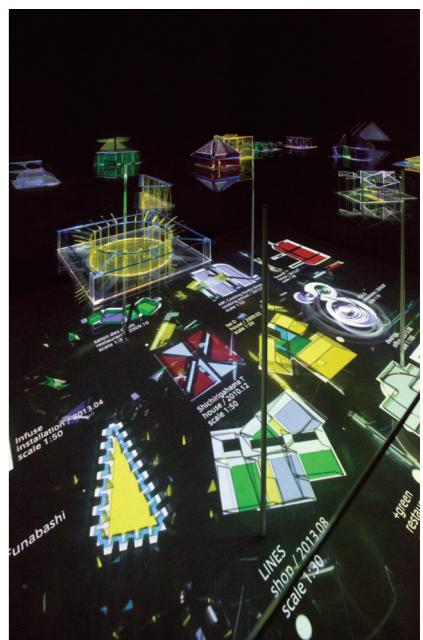
フランス・パリのアートイベント Nuit Blanche での、巨大な布の中で光を混ぜる、気候をテーマにしたインсталレーション



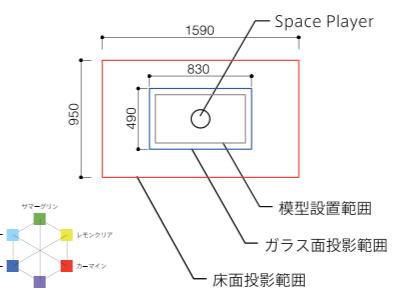
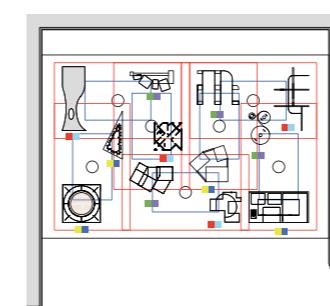
shape of light

Minato-ku, Tokyo 2014

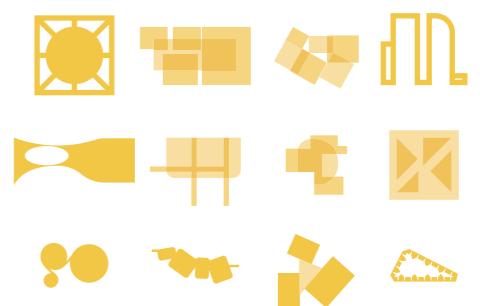
www.sinato.jp/works/shape-of-light/



[色影床面投影位置]



[模型に照射する光の形]



照明と映像の中間的な状況を目指し、カラーアクリルの模型のみに光を当てて、照明だけで床に映像をつくるインスタレーション

3 | OFFICE

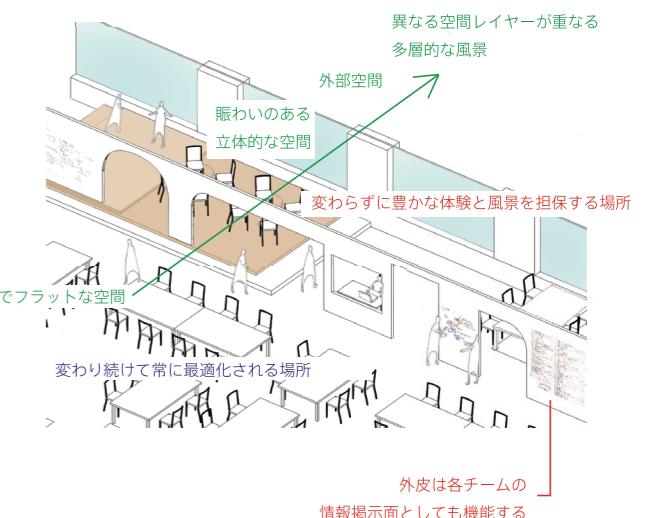
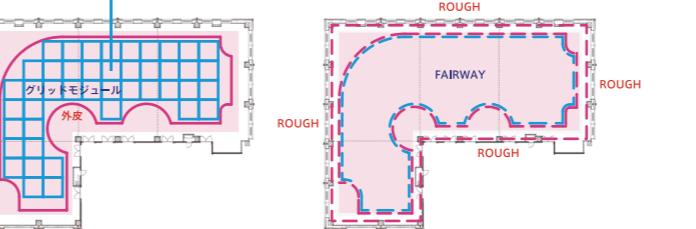
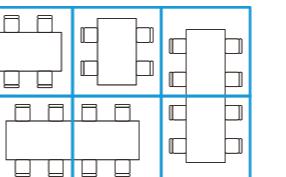
ゴルフポータルサイトを運営する「GDO」のオフィス。オフィスビルの1・7・8・9Fに位置し、7・9Fは執務、8Fは来客とクラブハウス（社員用ラウンジ）、1Fは撮影スタジオとなっている。執務フロアにおいては、プロジェクトのチーム編成に応じてデスクレイアウトを変更し続けられるよう、また変更する毎に執務エリアが乱雑にならぬよう、床に駐車場のような白線を設け、各マス内に4人用デスクを配置する形式とした。

白線は柱スパンの6400mmを考慮して3200mmグリッドで描き、デスクをどう置いても間の通路が確保される体系とした。またその合理的なデスク群を取り囲むように、腰壁で柔らかく仕切られた様々なコミュニケーションスペースを環状配置することで、WORK HARDとWORK FUNが両立する風景を目指した。来客とクラブハウスのフロアでは、その中間にバッファとしてガラス張の試打スペースを設け、来客側からもクラブハウス側からも使用出来るようにした。フロア中央で表示されるゴルフスイングという行為が、セキュリティで切られた両エリアの「見えるが見え過ぎない」という視認性を調整すると共に、ゴルフ関連企業としてのサインとしても機能する。

[執務エリアのコンセプト]

徹底的にフレキシブルにしながらも豊かな体験と風景をつくる

3200mmグリッドのモジュールプランを用いていつでもデスクレイアウトを変更できる設えとする

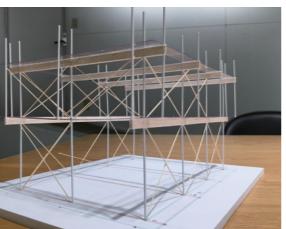


[study phase 1]

[study phase 2]

[study phase 3]

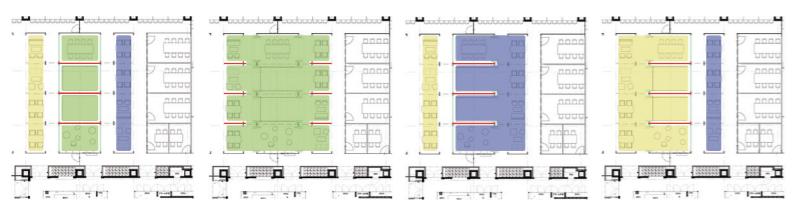
[study phase 4]



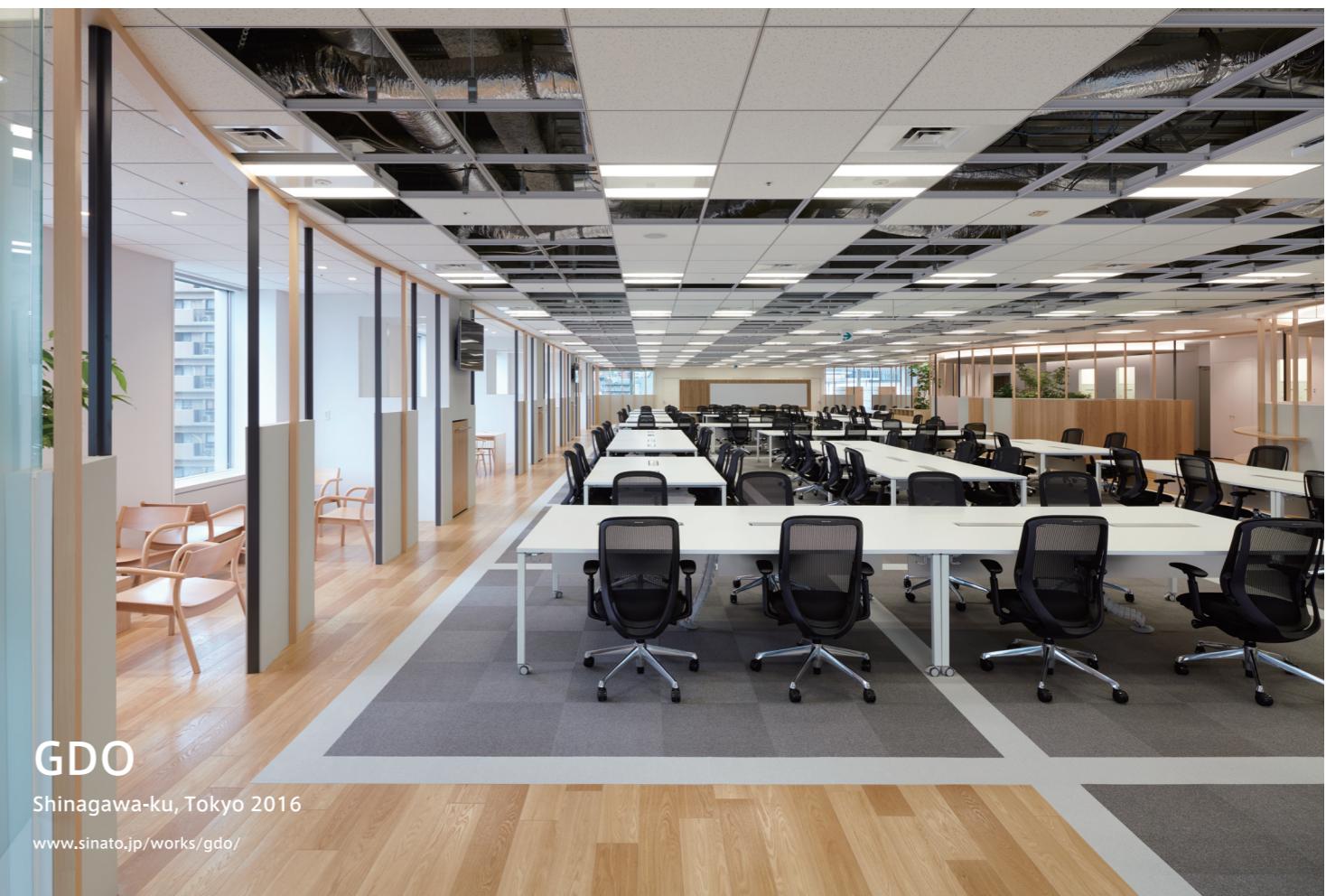
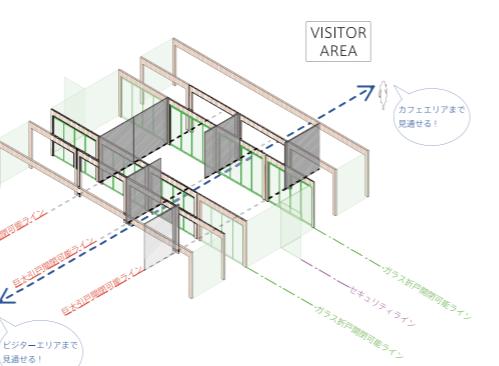
[社内外を分ける中間領域の提案]

CLUB HOUSEとVISITOR AREAがオーバーラップする中間領域ではY軸方向に2列あるガラス折戸とX軸方向に3列ある巨大引戸によって間仕切り方を変えることが出来る。

会議やイベントに応じて日々空間をアレンジしながら、場所を美しく使い倒す



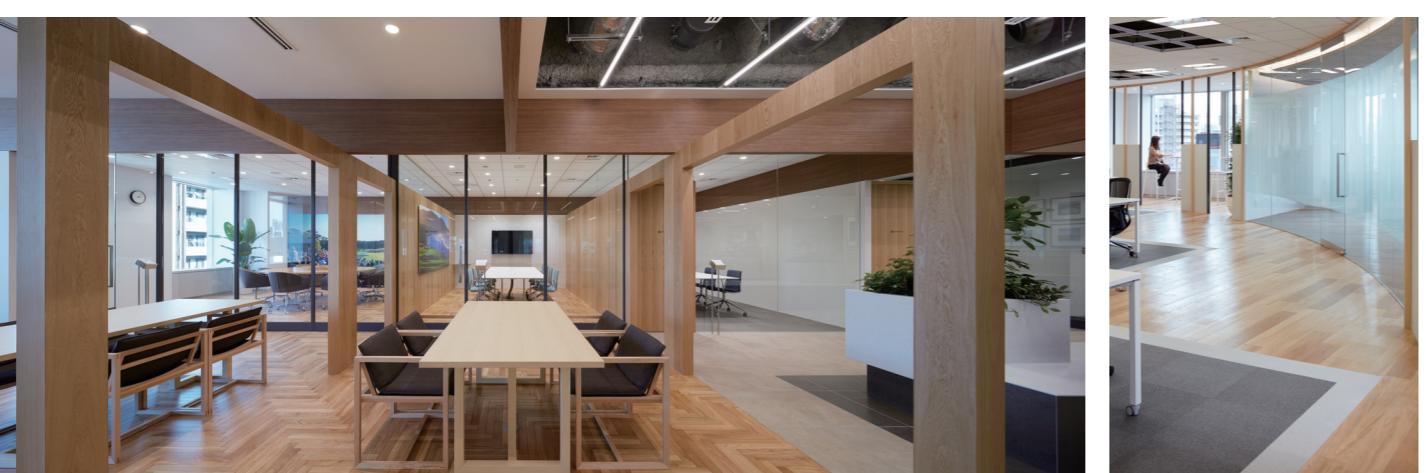
ガラス折戸全閉 / 大型引戸全閉 ガラス折戸全開 / 大型引戸全開 ガラス折戸半開 / 大型引戸全閉 ガラス折戸半開 / 大型引戸全閉



GDO

Shinagawa-ku, Tokyo 2016

www.sinato.jp/works/gdo/





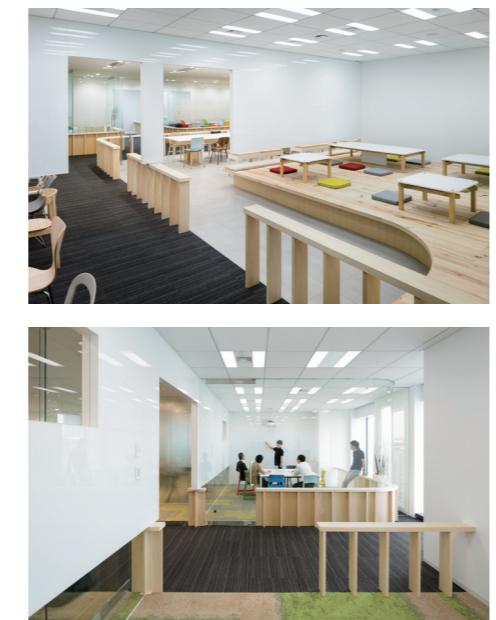
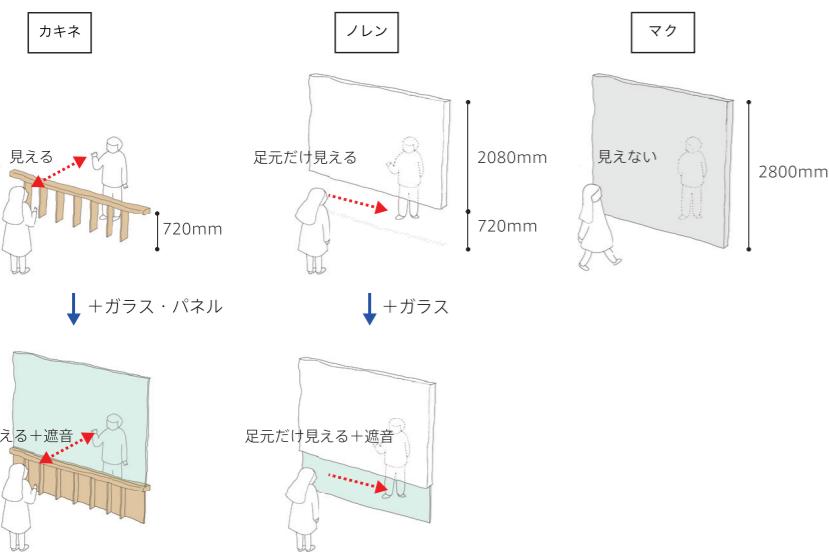
dwango

Chuo-ku, Tokyo 2013

www.sinato.jp/works/dwango/

[3つの異なる壁を重ねながらプランする]

「カキネ」「ノレン」「マク」と呼ばれる3種類の壁を使うことで、向こう側が「見える」「少し見える」「見えない」という状態を場所に応じて使い分ける



ニコニコ動画などを運営するネットワークエンターテインメント企業ドワンゴのオフィス。

3つの異なる壁による視覚的な差異を場所毎に使い分けながら、多様な距離感をつくりっている

voice of the client

荒木 隆司
ドワンゴ
代表取締役社長

歌舞伎座タワーにオフィスを引っこ越すことを決めた僕たちは、2013年3月11日(月)の午後3時から4つの会社に頼んでいた模型を使いながらまるで実際に観に行けますか?と成しているかのような口ぶりで説明を始めたのがsinatoの大野さんだった。事前にこちらから伝えていた基本的なコンセプトを踏まえた提案が続いたが、その中でただ一人尋ねたところ、西麻布のワインバーを紹介された。その日の夜は渋谷歌舞伎座タワーの若者で満員の渋谷の若い友人のバーで大野さんの作品を見たくなり、バーに呼び出され、午前1時ごろまでワインを飲みながら語り合い、盛り上がった僕たちは音楽好きの若者で満員の渋谷を紹介された。その日の夜は渋谷の若い友人のバーで大野さんの作品を見たくなり、バーに呼び出され、午前1時ごろまでワインを飲みながら語り合い、盛り上がった僕たちは音楽好きの若者で満員の渋谷の若い友人のバーで大野さんの作品を見たくなり、バーに呼び出され、午前1時ごろまでワインを飲みながら語り合い、盛り上がり、大野さんとの真剣勝負が、やがて得する「評判のドワンゴの新オフィス」につながっていくことになるのだが、今思い出しても真剣に楽しんだ忘れられない仕事になった。



[study phase 1]



[study phase 2]

[study phase 3]



鎌倉・材木座海岸そばに建つ、2階から分棟し各個室の独立性を高めた、木造3階建・スキップフロアのシェアオフィス



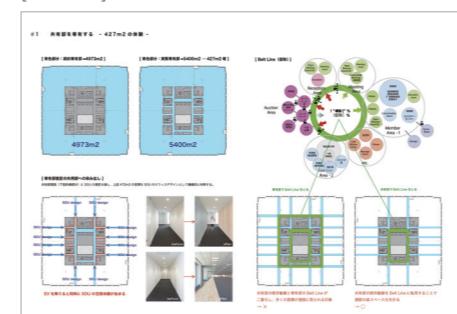
SOU

Minato-ku, Tokyo 2015

www.sinato.jp/works/sou/



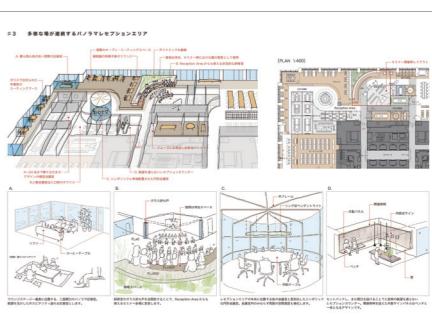
[動線計画]



[ボリュームスタディ]



[多様なコミュニケーションベクトルをつくる]



センターコアのボリュームを放射状に拡張して全体をつくる、ワンフロア約1500坪のオフィス兼オーディション会場

4 — COMMERCIAL COMPLEX

「JR新宿駅新南エリアでのバス・タクシーの乗降場を含めた交通結節点整備に伴い、新駅舎の改札内外コンコース・広場、またそれらに直結する商業施設「NEWoMan」の全体環境デザインを担当した。大きな方針として、駅舎・広場商業施設を一体的な環境としてグレーデーション的に繋ぐため、それぞれの空間の密度や質を調整して場の連続性をつくりながら、各用途固有の問題に対する解の更新を図っている。

「NEWoMan」のデザインのポイントは3つ。1つ目は綿密にデザインインレギュレーションを計画し、共用部・専有部（テナント）の境界線をズラすこと。専有部の天井を共用部に飛び出させたり、共用部の天井を専有部に入り込ませたり、「高さや開口率の制御と共に、両者が越境し領域がオーバーラップする状況をつくる。2つ目は共用部に小さな居場所を沢山つくること。本施設のような駅ビル型では、レンタル比の最大化に伴い共用部は最小限の通路のみとなることが多いが、その中で小さなニッチや余白を丁寧に発見しながらマイクロアメニティーとも言うべき通路以上の機能を設えていくことで、「共用部＝交通・専有部＝居場所」という二項対立的な関係を弱める。3つ目は専有部に比べ

て単調で均質になりがちな共用部に多様な形・色・素材を与えて専有部の空間情報量を寄せていくことで、両者の視覚的な差異を小さくする。

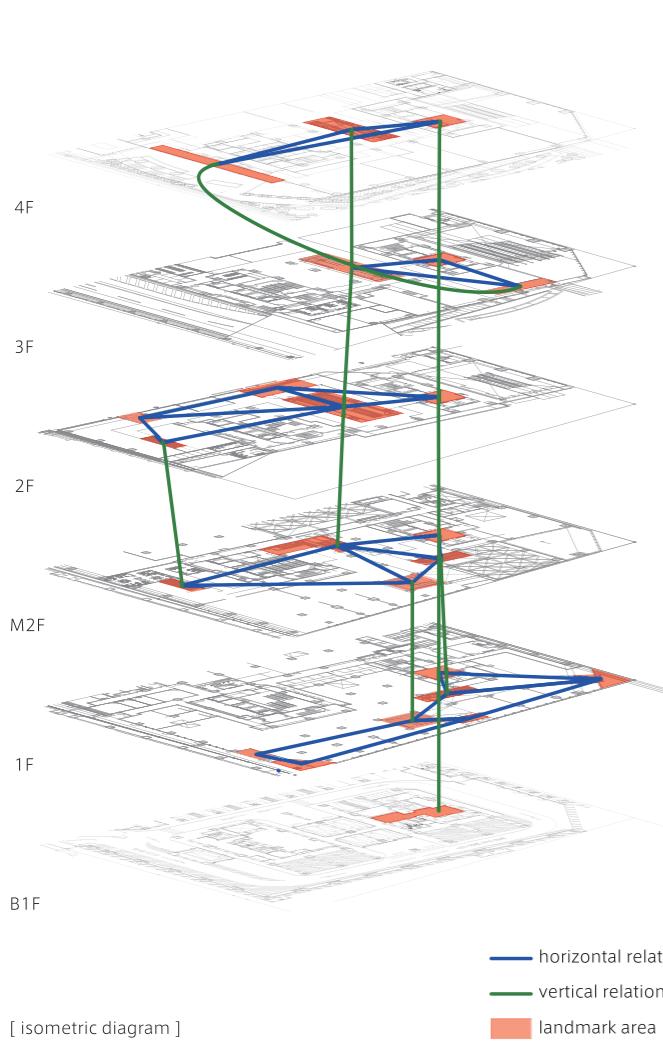
これらは全て、共用部一専有部が混ざり合った一続きの大きな店舗としての商業施設の在り方を目指したもので、前述した駅舎・広場を含めた連続性に接続するものである。また専有部という他者をどう計画に取り込み、その相対的な関係の中で立ち上がる全体をどうデザインしていくかという視座に拠って立つものである。



NEWoMan

Shinjuku-ku, Tokyo 2016

www.sinato.jp/works/newoman/



[isometric diagram]

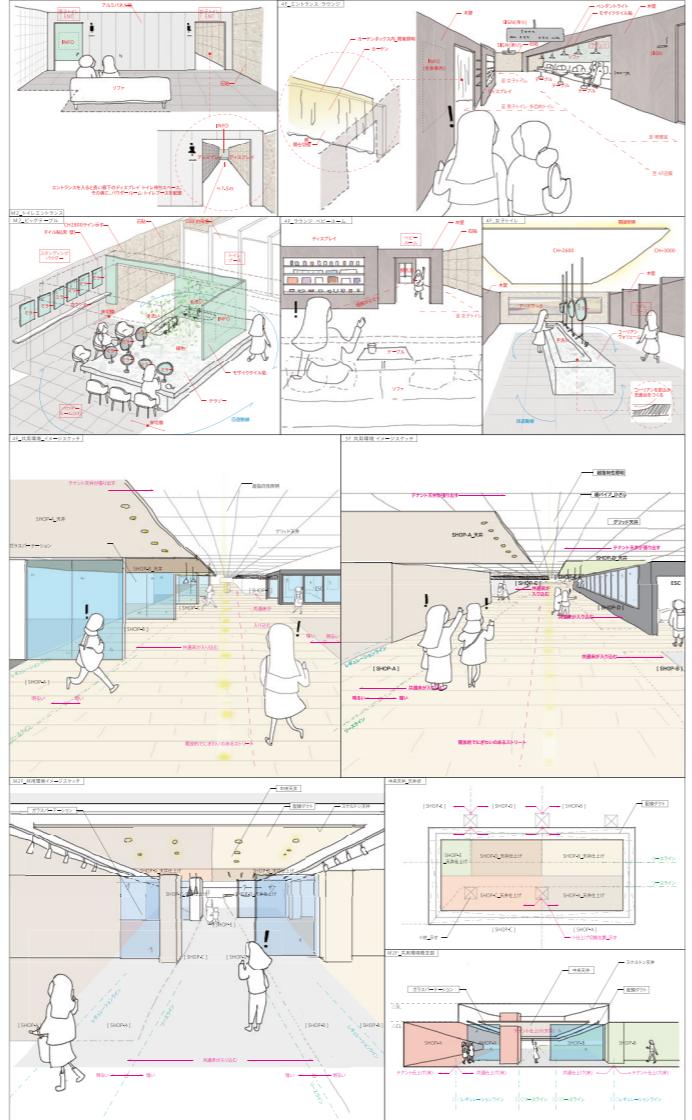


写真 下段：駅との接続部。駅コンコースの木天井が改札を超えて貫通路中央へ迫り出し、NEWoMan ファサードの木ルーバーは貫通路奥側にある広場へと連なる

共用部の要素を専有部へ、専有部の要素を共用部へ越境させることで、通路と店舗という二項対立的な関係を弱め、お互いが混ざり合った一続きの空間をつくる

voice of the client

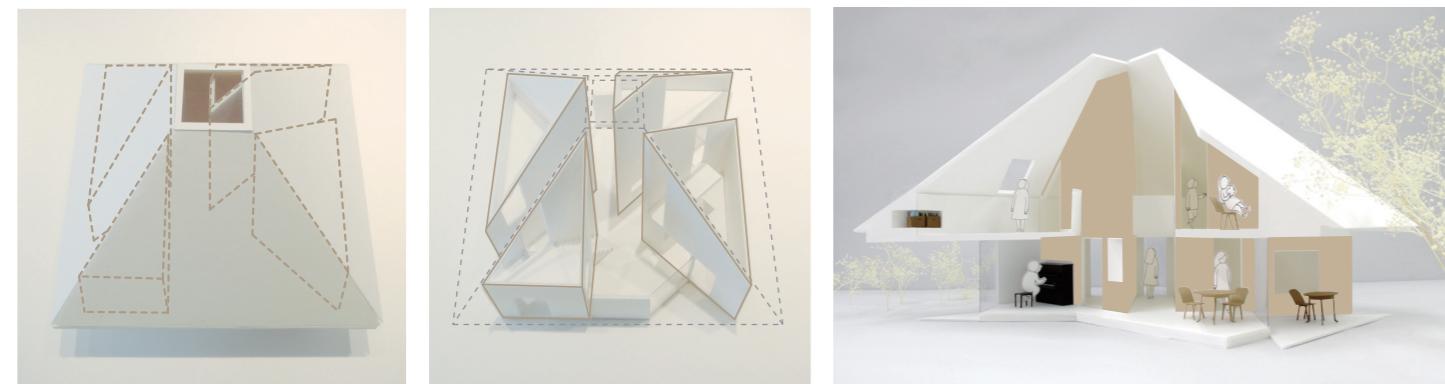
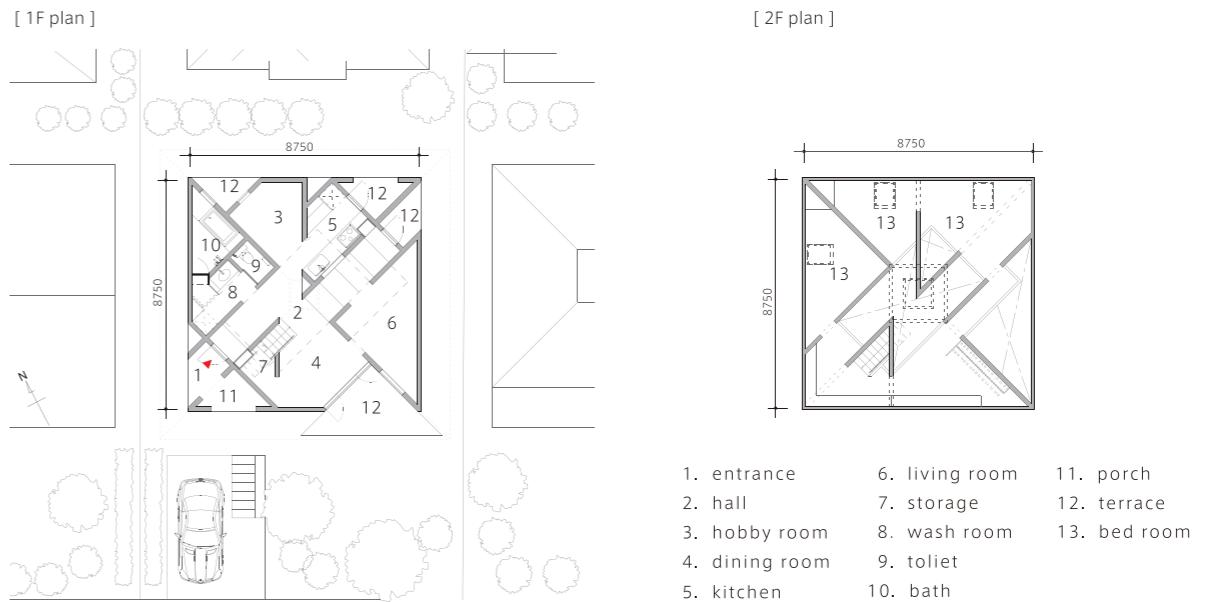
ルミネ
開発企画部

大野さんには、NEWoManの環境デザインプロジェクトで初めてお会いしました。大野さんがプレゼンテーションのためにいらっしゃった時の印象は、非常に若い方だなという方でした（年齢よりも若く見えました）。提案力・説明力とこちらの質問に対する対応力に非常に優れた方だなという印象で、弊社の担当者もプレゼンテーション終了後には決定しているような雰囲気になったのを覚えています。プロジェクトの中では、NEWoManだけではなく、JR東日本が管理している広場や駅のコンコースもデザインしていただきました。関係者が非常に多いため、デザインの決定のプロセスが分かれづらく、何度も絵を書き直していました。ただいたり、時には空調ダクト等の設備の細かな調整まで大野さんにしてもうういう事もありました。複雑なプロジェクトの中でも、様々な状況を把握した上で、意見にぶつかっていくのではなく、上手く力を受け流す合気道を思われるような対応力とデザインの細部にまでこだわる姿勢が非常に強い方だと思いました。またスケジュールに対する意識も高く、期日通りに提案を出していただけたなと今になって深く思います。

5 | HOUSE

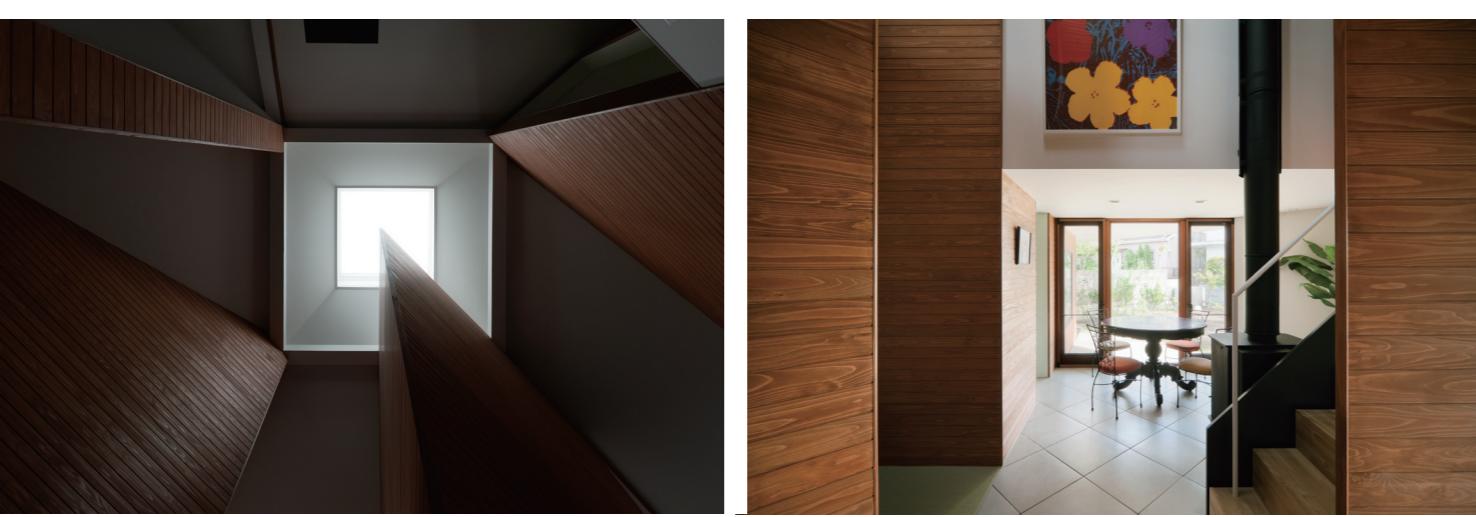


住宅地に建つ家族4人のための住宅。敷地の既存外構を活かしながら、その余った場所に大きな方の三角形平面のポリュームを稜線ラインに即して配置し、それぞれの三角形の一边で屋根の隅木を支えている。ポリューム内部とボリューム間の隙間に、様々な方向性とスケールをもつ場所が生まれていて、広がったり窄まったり、高かつたり低かつたり、といった複雑なひとつながりの中に生活機能が展開する。また上記の隙間からは、壁面の杉板目地ラインに誘導されて視線が開口部越しに敷地隅部へと抜け、4つの三角形ボリュームの頂点が押し寄せる中央では、屋根頂部のトップライトから安定した光が降り注ぐとともに、開放すれば他の開口部からの風がそこへ通り抜けていく。住人はここで毎日の生活の中で、四方八方に繋がりを感じながら、様々な距離感のシーンを継ぎ目無く体験することになるだろう。家族が近かったり遠かたり、建築が近かったり遠かたり、そういうた振り幅の大きな単一ではない関係性の中に、この場所固有の家族感や住宅感、またそれらに対する愛着が育まれることを期待している。



方形屋根によって室内側に生まれる空間形状とプランニングを連動させるべく、対角線状の隅棟ラインに沿って壁を配置

高い場所や低い場所、広がる場所や窄まる場所。複雑なひとつながりの中で、家族が見えたり、隠れたり、建築が近かったり、遠かったり、色々な距離感が生まれる



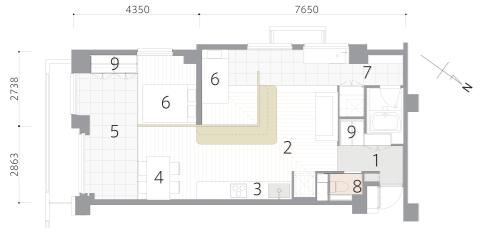


Fujigaoka M

Yokohama, Kanagawa 2014

www.sinato.jp/works/fujigaoka-m/

[plan]



- | | | |
|---------------|----------------|----------------------|
| 1. entrance | 4. dining | 7. wash space / bath |
| 2. open space | 5. relax place | 8. toilet |
| 3. kitchen | 6. bed room | 9. storage |

[diagr.]



築26年の集合住宅の1室をリノベーションした夫婦2人の為の住室。

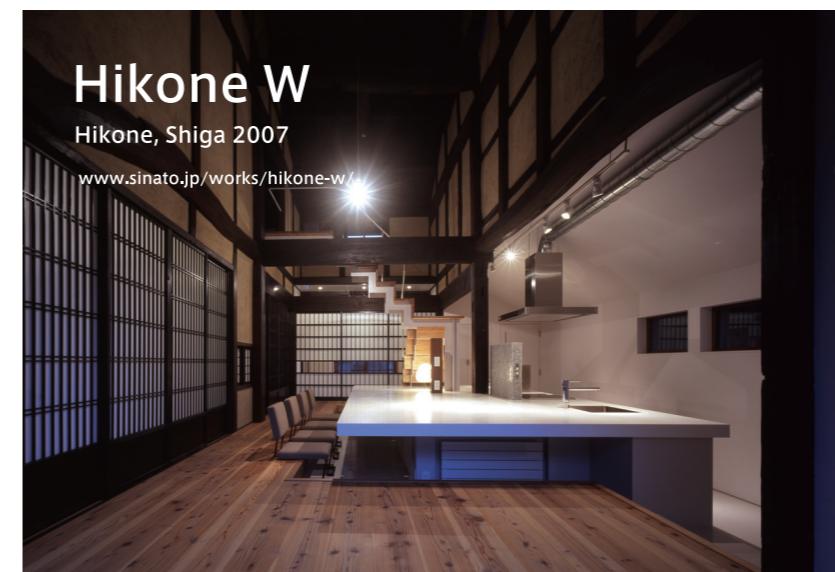
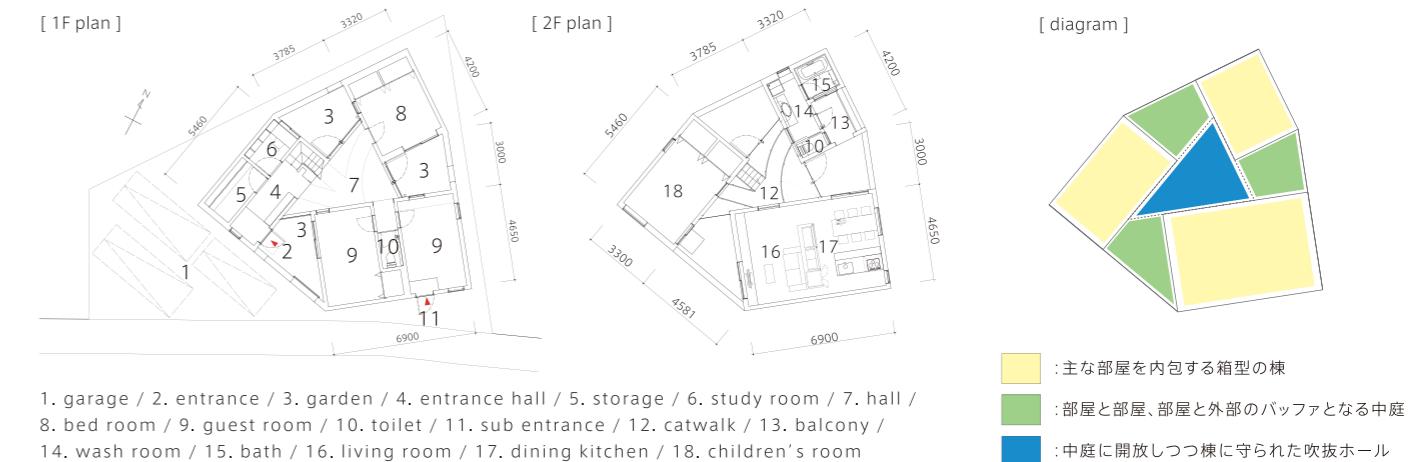
南西2面の窓を繋げるようL型のオープンスペースを設け、全体に光と風が行き渡るような室内環境を目指した

voice of the client

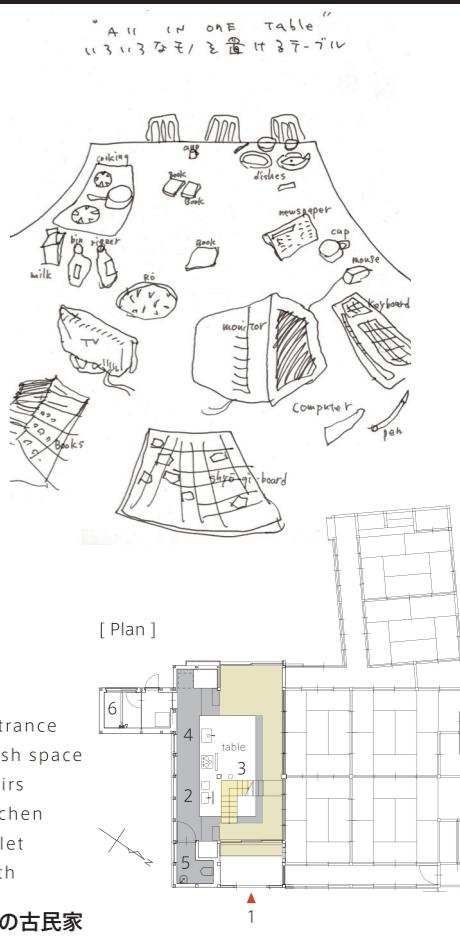
リビタ
リノベーションフルサポート
サービス事業部
チーフコンサルタント



部屋のように小さな中庭や外のように明るいホールが各部屋に隣接してバッファとなる木造2階建の住宅



土間に挿入した天板サイズ6帖の大きなテーブルが、様々なモノと生活を受け止める、築120年の古民家



6 | SHOP

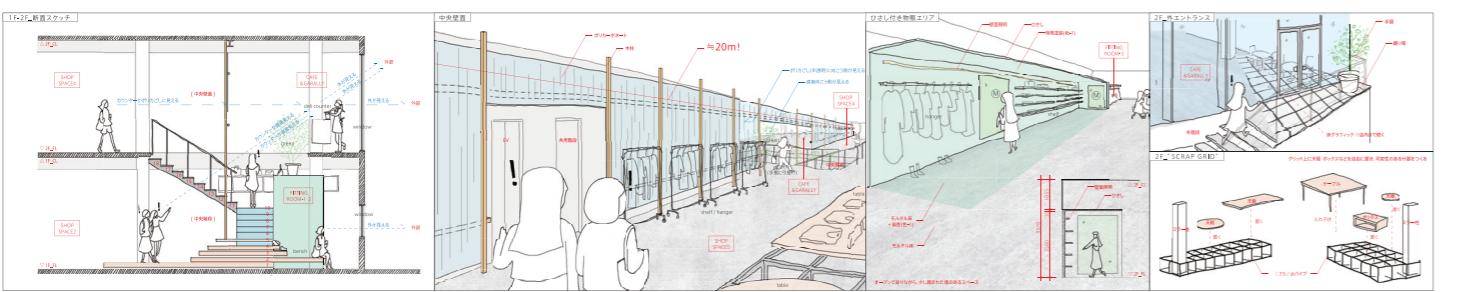
ファッショングランジ「SCRAP BOOK (JEANASIS)」の路面店舗。元は別々に使われていた1階と2階を同店舗として使用するため、既存の梁位置を考慮すると、設置を新設している。階段の大きさと2階の床スラブを開口し内部階段は店舗中央に限られる。であれば単なる昇降装置というより、様々な行為を受け止める象徴的な存在にしようと考え、商品棚・ディスプレイ・フィットティングルーム・ベンチといった機能を集積して、その中を人が昇降するよつくりとした。全体的にはなるべくオーブンな空間とすることで、内部はもちろん、遊歩道沿い角地といふ敷地条件を活かすべく、外部からも店内全てが見渡せるよう心がけた。またその開放的な雰囲気の中で、前述した階段やいくつかの大きな造作がアンカーとして空間の強度を担保するようなバランスを意識した。長嶋りかこ氏によるデザインを含め、様々な仕上げや形が離散的に配置され、各エレメントが脈略なく取り合うような状況の中から、一つの世界観に回収されない開かれたイメージが生まれている。その中で何度か登場する黒いスチールパイプによる立体グリッドは、ブランドのVIEであるグリッドパターンを空間的に反映したものである。



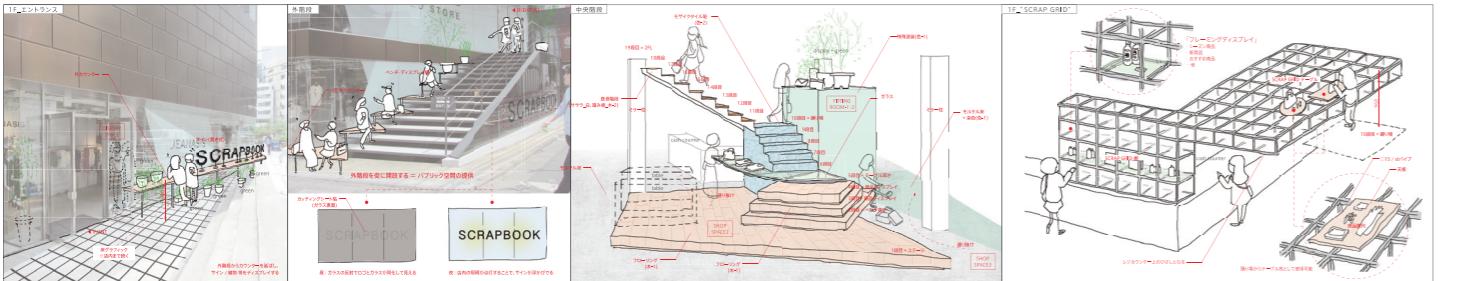
C = counter
Hg = hanger
T = table
Sh = shelf
St = stock
S = sofa
W = toilet
F = fitting room



[2F sketch]

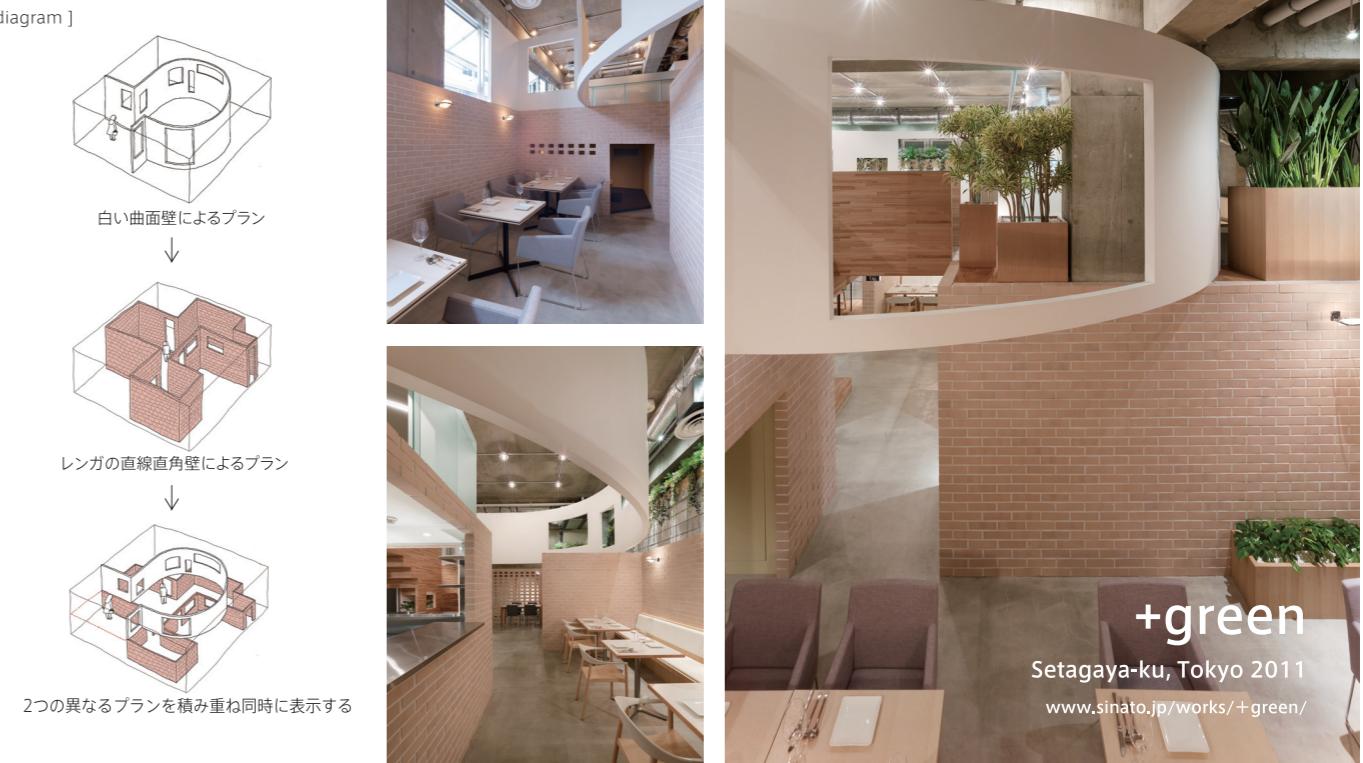


[1F sketch]

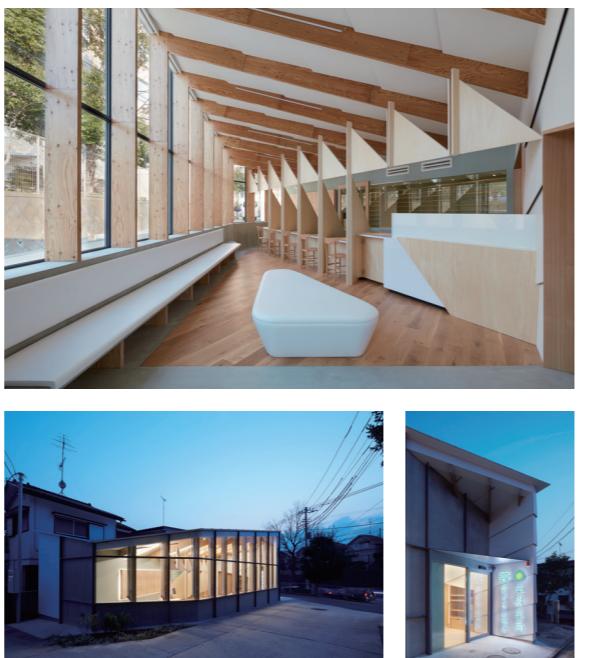
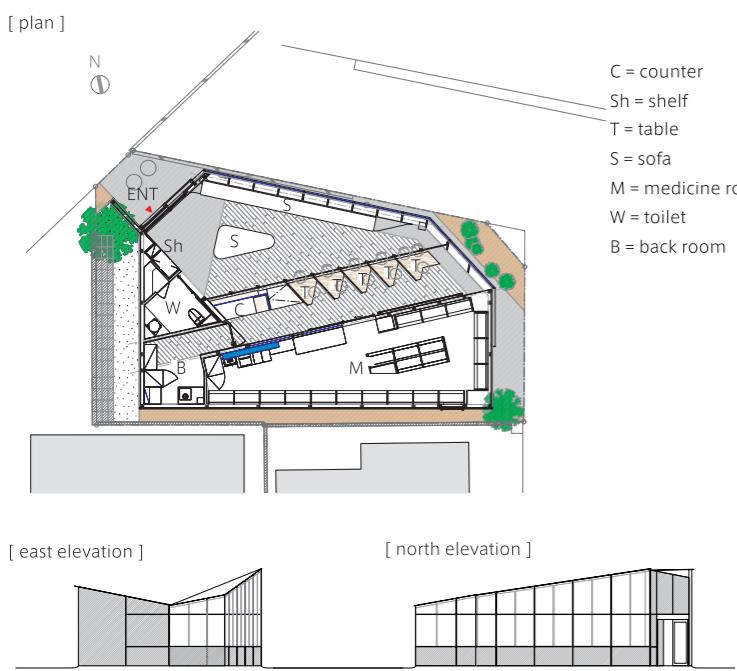


複数の機能がオーバーラップする造作形状や、各所での視線の抜け方などをスケッチで確認していく





1階と半地下で異なる壁ラインをそのまま積み重ねて出来たズレが上下の多様な関係をつくる、デリ兼オーガニックレストラン

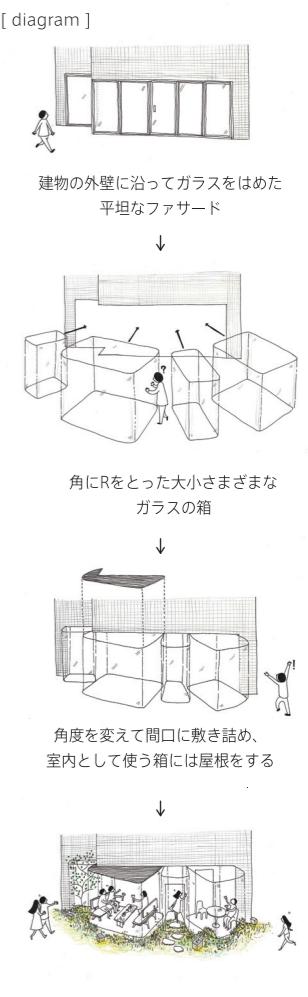


幹線道路と住宅地の境目に建つ木造平屋の保険薬局。幹線道路側を高くすることで周囲からの視認性を高めつつ、屋根がUターンするように徐々に低くなることで、背後の住宅への日照を確保している

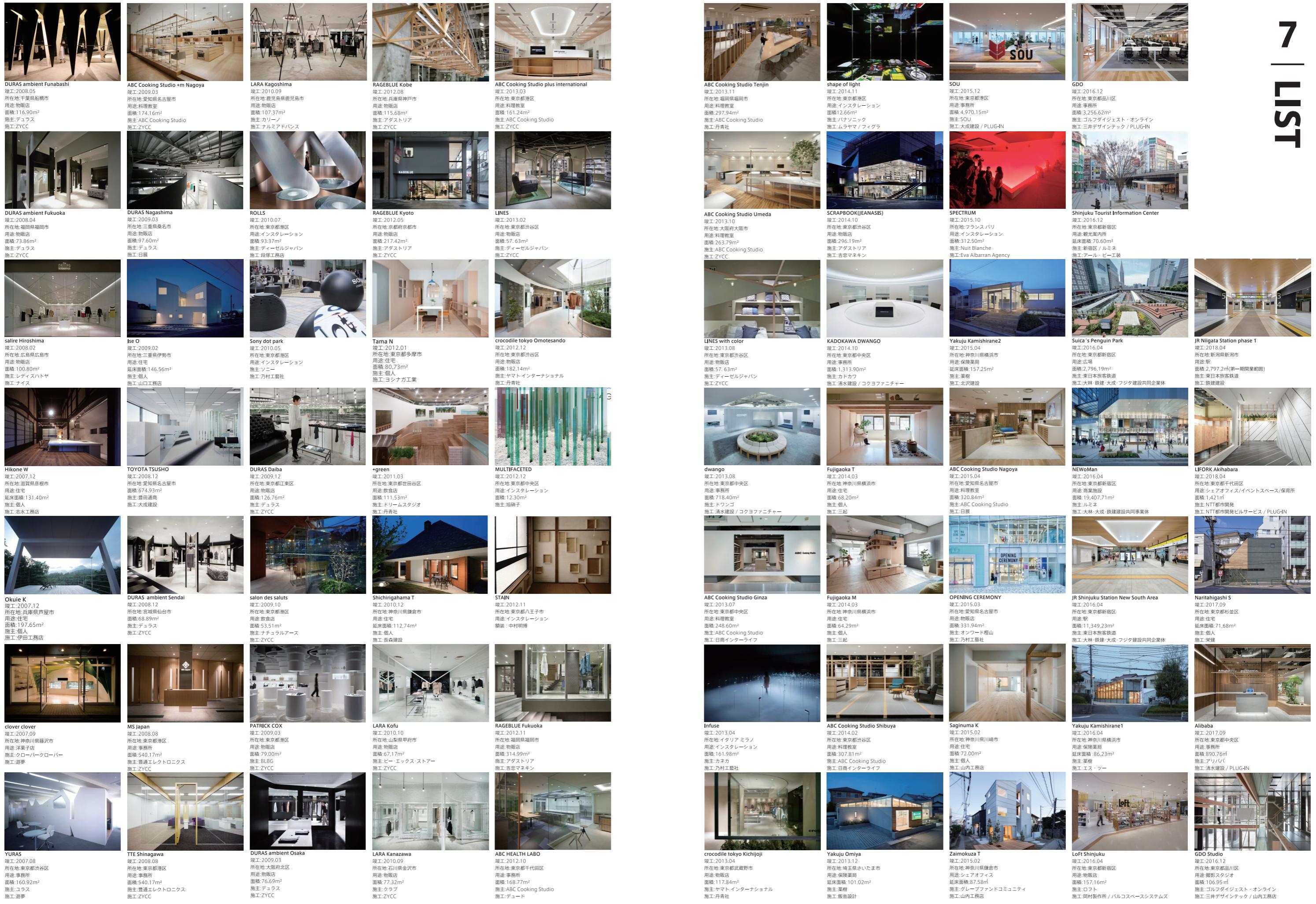
voice of the client

アダストリア
店舗デザイン部
マネージャー
羽成謙二

職業柄様々な設計者と付き合いがあるが、大野さんには「建築とインテリア」「住宅と店舗」などと言ったジャンルの垣根を感じない。それどころか「国」や「文化」すら軽く飛び越えるスケール感と柔軟性を感じる。日本人としては珍しいタイプの世界で通用する設計者だ。大野さんは「新しさ」が求められる特別な案件を依頼することが多いが、いつも感心するのはその提案精度の高さ。対象が何であれ、常に深く掘り下げ熟考したアイデアでこちらの期待や想像を良い意味で裏切ってくれる。シナリオズムとでも言うべき美意識が宿る空間構成の中にこちらの要望や課題に対するソリューションが絶妙な配合で注入されているイメージ。プレゼンの場に模型が登場し皆が「はあ」とか「お」という感心や驚きの声を漏らす。ジティブなザワつきがたまらないです（笑）。反対意見等に対しても、本質的な問題点を淡々と議論のテーブルに上げ、根気強く説明しながら各ハードルを確実にクリアしていく粘り強さと実直さがある。かと思えば時には問題をヒントとかわしつつ結果的に丸く収めてしまう様な軽やかさも持ち合っている。それは誰にでも出来ることではない。



4つの小さなガラスの箱を外壁ラインを跨いで開口部に敷き詰めた、立体的なファサードのワインビストロ



株式会社 シナト (sinato)
一級建築士事務所 東京都知事登録 第 54404 号

sinato は、建築とインテリアの設計を中心に、
新宿駅のような巨大施設から小さな住宅のリノ
ベーションまで、都市的・社会的な視野から
人間的尺度のデザインを追求する設計事務所です

[住所]
154-0016 東京都世田谷区弦巻 3-12-5-101
(東急田園都市線 桜新町駅北口より徒歩 8 分)

[連絡先]
03-6413-9081 (電話)
03-6413-9082 (ファックス)
central@sinato.jp (E メール)

[事業内容]
建築・インテリア・家具の設計及びそれらに関
わる一切の業務

[設立]
2004 年 4 月 21 日

[代表者]
大野 力

[管理建築士]
大野 力
一級建築士 第 328984 号

[取引先]
アマゾンジャパン
アリババ
USEN-NEXT HOLDINGS
NTT 都市開発
東日本旅客鉄道
東京急行電鉄
ルミネ
パレコ
HYUNDAI DEPARTMENT STORE (韓国)
LOTTE (韓国)
カドカワ
ドワンゴ
ゴルフダイジェスト・オンライン
豊田通商
コクヨ
オンワード樫山
アダストリア
ロフト
ディーゼルジャパン
中川政七商店
ABC Cooking Studio
リビタ
旭硝子
カネカ
他多数

[HP]
<http://www.sinato.jp>
[Instagram]
<https://www.instagram.com/sinato.jp>
[Facebook]
<https://www.facebook.com/sinato.jp>